

学校教育目標		めざす子どもの姿（中期的な目標）		総合評価									
かしこく きよく たくましく	◎「かしこく」	自分をふりかえり　よく考える子	学校に活気があふれ、粘り強く学習に取り組む姿、友だちを思いやりながら友とかかわる姿、声をかける姿等、児童が自己発揮する姿がたくさん見られた。それは、教職員が児童の思いや願いを大切に、児童理解に努め、それらに注視して取り組んだ成果だと思われる。日常的に気になることに對して、まずは受け止め、その子を理解しようとする姿勢が全職員のベースとなり、安心して児童が力を発揮しやすい学校へとつながったのではないかとと思われる。学習面において、児童理解を基に授業を展開し、「できた」「わかった」等の成功体験を積み重ねることで、児童が自信を持ち、あらたなる願いを生み、さらなる学びにつながるというよい連鎖も生まれた。 引き続き児童理解につとめ、全職員で児童を見守り、さらに主体的に対話的な深い学びの実現に向けて動きたい。										
	◎「きよく」	ともだちとかかわり　思いやりのある子											
	◎「たくましく」	すすんで取り組む　ねばり強い子											
	今年度の重点目標			成果と課題				A	B	C	D	改善策・向上策	
	「自己発揮できる子どもの育成」			子ども達が興味を持ちそうな活動を仕掛けたり、「やりたい!」という活動を仕組んだり、つまりすから試行錯誤できる場をつくったり、思いに向かって協働的な学びを用意したり、積極的に児童の話の聞いたり…先生方の積極的な取り組みが児童の自己発揮につながった。今後も自己発揮につながる授業展開や単元展開を進めると共に、自己発揮できるように個々に目を向け、安心安全な居場所づくりを心がけたい。	○					・自己発揮をゼロベースとし、その上でどんな子どもを育てたいか、繰り返し話題にして「表現」（本年度の反省から導かれた課題）の具体的に迫っていく。 ・自分の考えや気持ちを表す機会を増やし、学力の向上を目指す。 ・全職員で全校児童一人ひとりに寄り添い、安心安全な学校づくりに努める。（職員間の共有・連携、協働をベースとしていく。）			

領域	対象	評価項目	評価の観点	成果と課題	A	B	C	D	改善策・向上策
教育活動	授業・研究	子どもの実態をもとにした授業・研究	①子どもを「知る」＝実態把握できたか	・見守りたい児童を継続的に見守り、職員間で情報共有してすることで立体的にその子を見えることができ、具体的な対応を考えることができた。 ・全職員で意識的に児童を丁寧に見ることで、児童の実態把握につなげることができた。信頼関係を築くこともつなげられた。		○			・見守りたい児童を全職員で共有し、全職員から情報を得ることで、児童を多角的に捉えることができたので、来年度も継続していきたい。「いいことみつけ」の利用も進めたい。支援員や他の相談員の先生方との情報共有を大事にする。 ・普段の様子について、保護者や他の教職員と情報共有し、問題の早期発見、早期対応に努める。
			②子どものよさが引き立つように「仕掛ける」＝指導・支援ができたか。	・児童理解をベースにして、その子のよさが発揮されるように授業づくりを展開することができた。 ・実態把握することで、その子の困り感や強みがわかり、手立てを講じることができた。			○		・その子にあった支援ができるように児童理解に努め、自主的で、主体的で、個別最適な学び、深まりを生み出せるような指導支援を展開していく。
			③子どもの今後につながるよう「振り返る」＝省察	・個々で振り返ったり全体でふりかえったり、段階を迫って振り返ったりして、振り返りを充実させることができた。 ・書くだけでなく、さらに振り返りの内容の深まりをねらいたい。 ・教師も定期的に自分の指導方法について振り返り、子どもの実態や変化に応じて改善を重ねたい。			○		・お互いに「なぜそう考えるの?」「もっとこうじゃない?」など、多様な価値観に触れる場として高め合える時間をつくっていく。 ・個でも全体でも振り返りを位置づけ、本質的な高まりを期待したい。 ・次時の学習の紹介をし、見通しを持たせ、授業への取り組みを深めて内容の振り返りができるようにする。
	学級	一人ひとりの居場所がある学級～良さを認め合う活動を柱として～	一人ひとりの自信（自尊感情）につながる場を設定し、継続しているか。	・自分の意見や考えを言う場をたくさん作ることで、一人ひとりの思いをできるだけ実現させることができ、自信につなげることができた。 ・個別最適な学習環境を整えることを意識した結果、一人ひとりの顔つきがかわった。 ・その子のよさが発揮された場面を言葉にして児童に伝えることができた。			○		・成功体験の場を設定していく。 ・児童会活動を活用して子どもたちが苦手なことを克服したり、得意なことを伸ばしたりできるようにサポートする。 ・行事や児童会の機会を大切な場としてとらえ活用していく。
			子どもの実態を的確につかむために、子どもと対話し、教育相談を学期に1回行っているか。	・相談やつむくの記述から一日一人一回は声をかけるようにした。 ・相談にのることが安心感につながった。 ・教育相談を設けることで、ふだんなかなか話せない児童とゆっくり話すことができた。	○				・口頭での問診だけでなく、紙に記入してもらう方法を取り入れ、子どもが自分の気持ちを伝えやすくなるように工夫する。 ・相談週間に限らず一人ひとりと話す時間を大切にしている。 ・そのつど声がけをして話していく。
			家庭・学校・地域へ広がる あいさつ活動を進めているか。	・自らあいさつをしたり、よい場面をとりあげたりすることであいさつが広がってきた。 ・友だち、先生方以外の来校者への挨拶を定められた。 ・決まった場面の挨拶はようになったが、進んであいさつする児童は少ない。			○		・今後も職員自らあいさつをしていく。 ・しっかり顔を見て伝える。 ・道德の時間にあいさつについて扱うなどして、必要感を持てるようにする。 ・授業の始まり等、日常的な挨拶から大事にしている。
	地域	地域と共に歩む～長っ子コミュニティスクールを柱として～	子どもの思いや願いに応じた教育活動はできたか。	・長っ子ルームを開設できてよかった。 ・職員も参加して児童と同じ時間を共有できた。 ・誰もが長っ子ルームを利用し、地域の人からもエネルギーをいただける機会とした			○		・職員も参加して児童と同じ時間や思いを共有していく。 ・もっと一緒に遊ぶ。 ・子どもと同じ視点で考え行動していく。
			長の自然・歴史（真田）・文化・伝統に学ぶ体験活動や交流活動を取り入れるために、地域の人材を発掘することができたか。	・活動を通して人材発掘をすることができた。（藍、水、災害、理科：水の流れ、地層） ・真田の地域の施設を利用し、地域のよさを見つかけられるように工夫できた。			○		・人材バンクのようなシステムが構築されていくとよい。 ・長っ子タイムを設け、地域の方とつながり、地域に出て、地域を知る活動を展開していく。
	児童会	願いの実現に向けて団結できる児童会～役立つ喜びを得る活動を柱として～	笑顔溢れる長小学校の実現に向けて、人に役立つ喜びを得られる活動を取り入れることができたか。	・児童会活動を通して積極的に活動に参加し、自覚と責任感を持つことができたと感じる。			○		・6年生だけでなく、多くの児童が活躍できるように活動内容や指導を考えていく。
			挨拶が響き渡る学校の実現に向けて児童会活動として取り組むことができたか。	・児童会活動としてあいさつ運動をすることができた。 ・6年生の姿を伝えることで1年生も意識できた。 ・挨拶を広げるところまでは難しい。			○		・決まった場所で決まった時間に立つて行うあいさつ活動ではなく、流動的な中で活動していく方法を取り入れたらどうか。
学校運営		情報の発信	学校だより、学年だより、ホームページ、学校メール等で、自己発揮している子どもの様子を知らせているか。	・その都度お知らせすることができた。 ・文量は短く、写真を多くして様子がわかるように工夫した。 ・地域の方からも「学校の様子がよくわかる」という言葉をいただいた。			○		・写真をもっと載せる ・学校のことを発信し学校の活動を知ってもらい、支援していただけるようにする。
		家庭との連携	連絡帳、電話連絡、訪問などで、自己発揮している子どもの実態を中心に家庭との連絡を密にしているか。	・電話や連絡帳で家庭と密にやり取りできた。また、付箋で良さを伝えるようにした。 ・連絡帳では悪いことばかりではなく、子どものがんばっている姿を伝え家庭と共有した。 ・電話する時には必ず直近のその子のよさを伝えるようにしていた。 ・保護者、地域の方などと担任等への取次ぎを丁寧に言うことができた。			○		・家庭への連絡は問題があったときだけでなく、がんばった姿を伝えていいけるとよい。 ・学校に入ってきた情報等を正確・迅速に関係する職員に取り次ぐなどの適切な処理を心がける。
		危機管理	学校メールを活用したり見守り隊と協力したりしながら、児童の安全・安心を確保しているか。非遵行為研修に取り組んでいるか。	・安心メールを利用するなどして、長っ子見守り隊の方と連携することができた。 ・非遵行為防止研修は職員会のたびに行っていたので気持ち引き締まった。			○		・安全については迅速な対応を心がけていく。 ・今後も研修を重ねていく。 ・定期的に点検や振り返りをしていく。